

王であるキリストの祭日

金 大烈 神父

2007年11月25日

先週は榛名湖畔で震えながらミサを捧げたのですが、風邪をひかれた方がいらっしゃらないようなので感謝致します。

今日は「王であるキリスト」の祝日です。教会のカレンダーとしては最後の日曜日です。世の中のカレンダーとは約一か月違いますね。今日、全世界のカトリック教会は一年間を振り返って「一生懸命やってきたが神様に喜びを与えることができたのか、自分の生きる意味を意識しながらやってきたのか」それを反省するとともに、新たな決心をする日なのです。そして、この一年の最後の日曜日を教会は「王であるキリスト」の祝日と決めました。それは何の理由があるのか考えてみましょう。

イエス様、この世に遣わされて、罪もないのに私達のために十字架につけられた、それも、今日の福音で読まれたように本当に無能な姿を見せながら、それでも宇宙全体の王であることをはっきり宣言し、しかし、悲惨な姿で死んだイエス、その方を、私達はキリスト・私達の救い主と告白しています。彼は私達に何を教えようとしたのでしょうか？一番大事なこと。それは「あなた方が、本当に幸せになって欲しい」この言葉にすべて集約されます。私が愛する理由も、隣人と分かち合う理由も、人のために犠牲を払う理由も、結局自分の幸福のためです。しかし、それがなかなか簡単にできるものではありません。

イエス様は今日、私達にメッセージを下さるのではないかと思います。神様に本当に愛されている者として、どうしたら自分を正しく愛しながら生きていくことができるかを教えているんじゃないかと思います。私たちは毎日、毎日、新しい日を迎えています。その迎えた新しい一日を最後の日だと思って下さい。「今日こそ私に与えられた最後の日」そういう思いがあれば無駄に時間を使うことはできないでしょう。憎む余裕もありません。愛するためには時間が足りないと思います。今日は私に与えられた最後の日、これが正しい信仰者の歩む道です。

朝起きたら感謝します。「今日一日、私はがんばってみます。最後の日だと思って、私にとって何が一番必要なものか、大事なものが、よく考えてそのことのために生きます」そういう覚悟ができて、そのような一日になって欲しいです。

イエス様は、ご自分が一番愛されるお母さんの前で、恥ずかしい姿で、惨めな無能な姿で死ぬまでして私達に見せようとしたこと、それは私達の幸せです。私達が今日を尊い一日、貴重な一日、最後になるかもしれない一日、という意識を持って生きられれば、たぶん皆様の未来は豊かで幸せになると私は確信します。もちろん、私達は足りない所がたくさんあります、よくころびます。しかし、今日は神様が準備して下さった一日。そういう意識こそ私達の信仰の中心ではないでしょうか。

二番目に申し上げたいこと。洗礼の時のことを思い出してみましょう。洗礼を受けた途端に、私達に与えられる賜物が三つありますね。それはなんでしょう？

1. 王職にあずかること。
2. 預言者職にあずかること。
3. 祭司職にあずかること、です。

どういう意味でしょうか？ 皆様はイエス様のような生き方をしなければならないということです。イエス様は私達の王です。どういう王でしょうか？ この世の王といえばこわい存在ですよね。しかし、私達の王であるキリストという方は、あのような（十字架にかけられた）姿です。私達がイエス様のみ言葉、教えに従うと決心した時から、私達もあの王であるキリストのような姿を見せなければならない。洗礼を受けた途端に私達も王です。王様の特徴は何でしょう？ 困難な時でも自分のプライドを絶対失わない。自分がどのように尊い者かはっきり解っています。自分が崩れたら周りの皆も崩れてしまうことをいつも意識しています。あの方が見せたへりくだる姿は、王となるためには自分がし

もべにならなければならないことを教えているのです。カトリック信者なら必ずそれを見せなければならない、という教えです。キリストが王であるように、私達も王です。神様が下さった品位を失わないようにしなければならないと思います。自分の品位を認める者は、相手の品位も認めます。自分が愛されているとわかったら、相手のことも勝手にはできません。

次の預言者職。昔、預言者と言えば、明日何が起こるかとか、あなたの人生は・・・というように、占いのような感じで「未来にこういうことが起こるからきをつけなさい」と言うような人を預言者と言いました。しかし、今は変わりました。真の預言者とは超能力で未来を見るのではありません。カトリックで言う預言者とは、まず過去を振り返って見ます。そして今を見ます。「過去のようにしたらこのような結果がでる。それなら、私はどういう生き方をしたら良いか、どのようにしたら良いか？」と祈りの中で未来を計ることができる。そういう生き方をする人を預言者と言います。私達も預言者です。ですから、私達の具体的な生き方は、まずいつも過去を見る。次に今の姿を見る。そして、どのようにいけば良いかを予測して見て下さい。よく祈りながら。そこには必ず聖霊様の導きがあります。私達は時間に対しても、物に対しても、関わりに対しても預言者にならなければなりません。子供に魚をあげるのが良いか、肉をあげるのが良いか、どれが子供たちに対する愛するふるまいなのか、それを考える知恵を与えられます。

つぎの祭司職。皆様も祭司・司祭です。どういう司祭ですか？ 祭儀を行う時、私達のやり方は何かいけにえが必要です。獣を殺して、そうでなければ、いろいろな償いをしながら、他のものを通して自分の罪を捨てようとするのが伝統的な祭儀ですよね。しかし、あの方は永遠で真の司祭ですが、自分がいけにえにならなければならないと示された。実際あの方は自分がいけにえになって下さいました。そうでしょう。もちろん、私達にはいろいろな難しさがあって選ばなければなりません、難しい状況にあっても、10回に1回でも私がいけにえになろうとする豊かな心をお持ち下さい。家族の中で、友達の中で、すべてのことで、まずそれを見せようとする心。この共同体がうまくいくために私がいけにえ、灯台になろうという心。それがなければいつも揺れ動いてしまいます。

整理してみましょう。私達は、王です。預言者です。司祭です。この三つについて意識し、心に留めて下さったら心配しなくていいんじゃないかと思います。

過ぎた1年を振り返ってみながら、新しく与えられる1年がもっと意味ある、生きがいのある1年になるようにがんばってみましょう。

ありがとうございました。